

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770102204
法人名	有限会社 普門
事業所名	グループホームひがん
所在地	香川県高松市藤塚町一丁目11番5号 (電話)087-831-9667

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年8月7日	評価決定日	平成21年9月29日

## 【情報提供票より】(21年7月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <del>平成</del> 15年 3月 15日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	26人	常勤 23人, 非常勤 3人, 常勤換算	24.8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 4階建の1階～4階部分
------	---------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	25,000円+実費	
敷金	有( )円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100円		

### (4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	27名	男性	7名	女性	20名
要介護1	4名	要介護2	5名		
要介護3	9名	要介護4	7名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 88歳	最低	78歳	最高	99歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	いがわ医院・医療法人優心会高松大塚歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは市街地の中心部にある。4階建てで屋上には家庭菜園が広く作られており、ビルの谷間からは屋島などの景勝地が望める。各階では利用者の作品を始め絵画や内装などでやすらげる空間作りを工夫している。利用者が何事にもその人らしい暮らしを支えることを大切に配慮がうかがえ、利用者も穏やかな雰囲気でも過ごしている。身体拘束防止・事故防止・感染防止等各種の委員会が実施され利用者の安全確保に取り組んでいる。協力医療機関との連携が十分になされ看取りへの取り組みが積極的に行われている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の調査では、地域密着型サービスとしての理念・職員を育てる取り組み・日常的な外出支援・災害対策などの改善課題があった。具体的に解決できるところから取り組み、解決への努力がうかがえる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の実施意義を十分に理解し、各ユニットごとに職員が分担し、リーダーがまとめ各ユニットの自己評価の結果は、管理者とともに検討するなど全体的な取り組みが実施されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2カ月に1回開催され、参加メンバーには案内状を送り、議題も明記されている。サービス内容の状況報告・行事予定・各委員会報告など多岐にわたり検討されている。参加者一人一言を求め、全員が発言できる会を目指し、それぞれの立場からの要望・助言を聴き、求められる介護サービスのあり方を探求し、運営に反映できる取り組みをしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会は3カ月に1回開催されている。家族の希望により職員が進行係を行っているが、出席率は平均50%前後あり、必要時には個別に意見を伺っている。意見箱も設置しているが利用は無い。面会時を利用して、利用者の暮らしぶりや健康状態の報告と共に、家族の意見・苦情・不安などを把握し、迅速に対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の祭りに参加したり、保育園との交流では季節の行事を一緒に行い利用者の楽しみの機会になっている。しかし、日常的な地域との交流はあまりなく、今後利用者が地域の方々と馴染めるような機会を作り出せるよう期待したい。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設者の強い思いからホーム名を「ひがん」と名づけ、社名も普門とし、「ひろく地域の人々を受け入れ、何ごとにもとらわれない、この世の極楽を・・・」という強い思いを職員も掲げてある理念から十分理解しているが、地域密着型サービスとしての理念は掲げていない。現在職員全員に募集し、検討している。	○	既存の理念に地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を加えた理念の作成に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、管理者・職員は朝礼時に唱和し、理念の考え方を共有し、日々の支援の目標にしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りに参加したり、保育園との交流、定期的なホーム主催のボランティアの受け入れがあり、ホームとしての地域開放を行っている。	○	現状の努力にとどまらず、日常的なボランティアの受け入れなど利用者が地域の方々と馴染めるような機会を作り出せるよう期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を十分に理解し、全員で自己評価に取り組み、ホームのあり方の振り返りの機会としている。改善点についてはフロアミーティング・勉強会などで話し合い、また、家族会・運営推進委員会にも提案し討議改善へと取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回議題を決めて開催されている。参加メンバーの人々が運営推進会議の意義や役割を理解して、議題に取り組み、意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から運営推進会議には毎回2名の参加がある。また、市主催の研修会に参加したり、不明な事項については問い合わせ、年4回広報誌を届けるなど機会ある毎に市担当者と連絡を取りサービスの向上につなげている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は家族会や面会時を利用して、詳しく報告している。緊急時は電話にて連絡説明している。また、年4回は広報誌を発行したり、金銭出納は毎月報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	南玄関に意見箱を置いているが、利用は無い。面会時・家族会・運営推進会議などで意見をもらい、対応・改善している。開催する会では一人一言お願いし、ご家族の意見を引き出すよう工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム内でのローテーションは取り入れているが、離職者がほとんどいない状況である。また、利用者にあった浴室の利用のため、他のユニットを利用したり、ホーム全体での行事などを通じて馴染みの関係が保たれるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は業務の一環として取り扱い、個人が特に希望するものについては有休扱いとして受講しやすい環境を整えている。全職員が共有できるよう研修内容を報告する機会を持ち、記録が残されている。今年から事業所内研修は年間計画が作成・実施され、職員の介護レベルアップに努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香川県グループホーム協議会・香川県介護サービス事業者協会に加入、相互評価事業に参加し、発表を行うなど活発に活動、他事業所との交流・情報交換を行ってサービスの質の向上に向けた取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に訪問を行ったり、入居前には本人・家族の施設見学と既存の利用者・職員と一緒に食事をしたりして馴染みの関係作りに努め、入居3カ月は毎日面会に来てもらうなど本人が安心・納得した上でのサービス開始となっている。また、再利用の方も多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の話を十分に聞き、表情や行動からしたい行動に対して優しく笑顔で対応することを基本とし、できることはしてもらい見守るようにすることで共に過ごす関係作りをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・行動・表情などから利用者の思いを汲み取り介護に反映させている。利用者のサインを見逃さないようユニットでのミーティング・勉強会で事例検討を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向、職員の日々の介護の中での気づきなどがミーティング、サービス担当者会議で検討され、個別性のある介護計画が立案されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月毎に担当者によりモニタリングが行われ、リーダーがチェック、カンファレンスにて長期・短期の介護目標を評価更新している。急な状態変化時も、本人・家族・協力医療機関と話し合い現状に即した計画を作成・実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診時、職員運転による送迎サービス、訪問理容サービスや買い物の要望に応じ支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療体制は確保されているが、利用者・家族が希望する他の医療機関での医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「最後までグループホームで」と利用者・ご家族からの希望もあり、2例の看取りの経験がある。本年4月から看取りケア委員会を設置しマニュアルの作成、重度化・終末期の支援の研修や勉強会を重ねていくことが検討されており、できる限り本人やご家族の希望に添えるよう取り組む姿勢である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護・管理には職員が十分に認識し、対応している。介護者は利用者一人ひとりのプライバシーの保護を大切に声かけ・対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは決められているが、一人ひとりの生活ペースを大切に、介護計画とは別に個々の具体的なケア方法書を作成し、実践されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は各ユニットが交替で一週間ずつ献立を決め、専任者による調理が行われている。また、屋上の菜園の収穫物も食材として取り入れられている。食事前に構音訓練・嚥下体操を実施し職員が利用者と一緒に食べ、見守りや声かけで一人ひとりのペースで食事が出来ている。	○	食事を楽しむために献立を考えるだけでなく、月に1～2回からでも手作りのおやつなど取り組みやすい方法で生活能力を踏まえたいうでの声かけや場面作りが期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回を基本に毎日の入浴まで利用者の希望・体調に合わせて、見守り浴・特殊浴が出来るよう支援されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のこれまでの生活歴や得意分野での力量を発揮できるように支援している。作品は共有スペースに展示し、菜園の世話・洗濯物たたみなど共同生活者の一員であり、必要な存在であることを職員は感謝の言葉で伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎週木曜日に外出レクリエーションを行っていたが、新型インフルエンザの流行が危惧され中止になっている。協力医院への受診時を利用したり、希望での買い物・散歩などで戸外に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室では鍵をかけないでカーテンを使用しているが、利用者の家族からも安全性の確保が求められ、立地条件・建物の構造上の理由で鍵を使用している。鍵をかけない介護の必要性は認識している様子がうかがえる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火担当者が専任され緊急連絡網・マニュアルが作成され、利用者も参加した防火訓練が行われている。	○	運営推進会議・自治会等で地域住民にホームの災害対策に関する理解を求め、協力体制を整え、地域に根付いた防災対策が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は常にチェック・記録されていて、職員が情報を共有している。利用者の咀嚼・嚥下能力に応じた調理方法を用いた支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、対面キッチンが併設されたリビングである。利用者の作品や生花・絵画も飾られ、テーブルは多目的使用でリビングの変化が楽しめる。自宅の延長として、その人らしく過ごせる居心地良い空間となっている。また、清潔面にも着目し、トイレ清掃を1日に5～6回している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド・整理ダンス・洗面台などが備えられている。利用者は家具等を自由に配置し、馴染みの物を持ち込み居心地良く過ごせるような工夫がうかがえる。		